

平成30年度 伊万里市立大川小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
○「元気いっぱい やさしいいっぱい 知恵いっぱい」の児童の育成	1 元気いっぱい ……①家庭との連携による「早ね・早起き・朝ごはん」②効果的な保健指導 ③教科体育の充実 ④体力づくりの推進 ⑤ねばり強く取り組む子どもの育成 2 やさしいいっぱい……①互いを認め合い、思いやりのある言葉かけ ②人権学習「心の教育3点セット」 ③特別活動の充実、縦割り班活動、交流教育 ④生活のきまりの徹底 3 知恵いっぱい ……①基礎・基本の徹底 ②校内研究の充実、TT少人数指導、ICT活用教育の推進 ③読書週間の定着、家読の推進 ④家庭との連携による学習習慣の定着 ◇地域とともに ……①授業等の公開、情報提供、HPの充実 ②問題事案に対する親身な対応 ③地域行事への理解と協力 ④学校評価の実施と結果の活用

達成度

A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 元気いっぱい

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	・体力づくりの推進、教科体育の充実 ○食育の充実 ・効果的な保健指導、治療率向上	・外遊びを呼びかけ、健康で元気な体作りを推進し、1週間の総運動時間が60分未満の児童を0%にする。 ・食の大切さに対する保護者や児童の意識を高める。 ・全学年で、朝食の喫食率と衛生面の管理(はんかちの所有、つめを切る等)ができるように85%以上を目指す。 ・健康診断結果にもとづくむし歯の治療率を80%以上にする。	・新体力テストやさがんキッズ体カアップカードを活用し、外遊びや体づくりについて指導する。 ・家庭科や総合的な学習の時間において、栄養教諭等を招いた授業実践や講話を行う。 ・試食会などの、PTAと連携した取組を行う。 ・朝食の必要性を保護者に伝え、各学期に一回は朝食の喫食調査をし、実態を把握する。各学年に応じた衛生の指導を行い、保護者にも行った指導内容を伝える。 ・歯科衛生士と連携した保健指導や歯や口に関する情報の提供、治療の状況確認を定期的に行う。	B	・マラソントイの時間を設けたり、全校統一した縄跳びカードを活用したりすることで全校児童が意欲的に運動することに取り組むことができた。 ・外遊びについては、特定の児童ができていないが、一部の児童がまだできていない。 ・毎週水曜日に朝食の摂食調査と衛生検査を行い、実態を把握することができた。しかし、職員間での把握にとどまり、保護者への喚起に至っていないので、実態を伝えていく必要がある。 ・12月12日現在治療率は70%であり、引き続き取り組みが必要である。 ・歯科衛生士と連携した保健指導を継続するとともに、むし歯の治療の必要性を児童及び保護者に伝えていく。 ・保護者に対して、学校で行っている歯や食について一緒に学んでいくような機会をつくり、保護者の意識をもっと高めていく必要がある。	・学級担任にもさがんキッズの運動の取り組みについて紹介して、広げていく。 ・外遊びの呼びかけや体づくりについての情報を校内に掲示し、児童の意識を高める。 ・学期に1回以上朝食の喫食調査を行い、実態を把握することができた。しかし、職員間での把握にとどまり、保護者への喚起に至っていないので、実態を伝えていく必要がある。 ・歯科衛生士と連携した保健指導を継続するとともに、むし歯の治療の必要性を児童及び保護者に伝えていく。 ・保護者に対して、学校で行っている歯や食について一緒に学んでいくような機会をつくり、保護者の意識をもっと高めていく必要がある。	保健部	松尾和野中
特定課題	・家庭の教育力向上	・家庭との連携による学習習慣定着 ・テレビやゲームの時間 ・早ね、早起きの習慣	・家庭と協力し、児童の生活向上をめざす。 ・早寝早起き朝ごはんの充実を図り、ノーテレビ・ノーゲーム実施全校児童50%以上をめざす。 ・進んで気持ちのよいあいさつ、はっきり返事のできる児童の割合が、全校児童の90%以上になるよう日々指導する。	・家庭訪問、懇談会・教育講演会や学校・学級便りを通して、家庭における生活習慣の向上をめざす。(毎月第1週目に「生活計画表」で点検する。) ・学校だけでなくPTA役員会などを通して、家庭への啓発を図る。 (毎月1日～の1週間をノーテレビ・ノーゲームデーに設定する。) ・あいさつや返事の指導は、学校での指導とあわせて行うようにする。 (生活のふり返りカードは、各学年で評価基準を定めて実施する。)	B	・6月、10月、11月の3回生活習慣チェックを行い、平均すると毎回90%以上の喫食率だった。しかし、学年別で見ると1学年の喫食率が85%以下の時があった。 ・児童の生活習慣の向上をめざし、お便りや懇談会などを通して家庭へ啓発することができた。 ・毎月第1週目を「忘れ物0週間」として全校的に実施したことや、健康観察の際、衛生チェックや就寝時刻を調査したことで、生活習慣について意識できるようになってきた。 ・「生活振り返りカード」は5・6年で実践した。しかし、個人差が大きい。 ・東陵中学校区で毎月1日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」とし実践したが、徹底できなかった。 ・ゲームや動画の視聴について、各学年の実態に応じて指導を行ってきた。 ・挨拶については、本校の年間目標にも掲げ、6年生が率先してあいさつ運動をすることができた。	・家庭訪問、懇談会・教育講演会や学校・学級便りを通して、家庭における生活習慣向上をめざす。 ・ゲームや動画の視聴について、懇談会や教育講演会などを通して、家庭への啓発を図る。 ・挨拶や返事の指導を継続して行う。 ・毎月1日をノーテレビ・ノーゲームデーに設定し、実施状況を把握する。グラフ化するなど、児童が振り返りやすいようにする。	生活部	北原

② やさしいいっぱい

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	・学年、学級経営	・学級目標の達成 ・支持的風土の醸成 ・特別活動、学級活動の充実	・学級目標を達成させ、楽しい学校・学級作りを進める。 ・学級経営の柱に、一人ひとりのよさを大切に支持した支持的風土づくりを取り入れる。 ・特別活動(学級活動)を工夫し、みんななどの活動が楽しいと思える子どもの数を増やす。	・学級目標の具体的な姿を、学期ごとに達成できているか児童とともに振り返り、改善を行う。 ・各学級で児童のがんばりを認め賞賛し合う場を設ける。 ・各学級で「仲間」を意識できるような学級活動や集会を仕組む。	B	・各学年の実態に応じて、学級目標を振り返ったり、児童のがんばりを認め賞賛しあう場を設けることができた。 ・より楽しい学級生活になるように、学年の発達段階に合わせた話し合いの場(学級会)を持ち、それぞれの学級で特別活動を工夫することができた。 ・学校全体で賞賛する場(ふわふわの木)があったが、あまり広がらなかった。	・話し合いの仕方・係り活動の工夫などについて、資料を紹介しあうなどして、より良い学級活動につながるよう、職員同士情報交換をしていく。 ・賞賛の場をもっと学校全体につながるような児童会活動の工夫を考えていく。	管理運営 特活	羽田野石橋
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実 ○心の教育3点セット(「いのちの教育」「伊万里っこしぐさ」「伊万里市童謡歌集」)の活用 ・きまりを守る児童の育成	・道徳と各教科や領域を関連づけ、効果的な指導を進める。 ・道徳や朝の会などで、心の教育3点セットを活用する。 ・廊下は右側を歩き、元気なあいさつや返事を児童の割合が、80%以上になるようにする。	・道徳教育全体計画を作成し、各教科や領域と関連づけた効果的な指導を行う。 ・道徳の評価についての研修を深め、効果的な評価を行う。 ・道徳や学級活動の時間に、心の教育3点セットを計画的に取り入れる。 ・廊下の歩行、あいさつや返事について、朝会や学級での指導を随時行う。	C	・各教科や領域と関連づけた全体計画を作成した。 ・評価についての研修は行ったが、更に具体的な評価のあり方について伝えるべきだった。 ・心の教育3点セットの「伊万里っこしぐさ」「命の教育指導資料」については活用を促しているが、「童謡集」についてはあまり活用できていない。	・道徳の全体計画は今年度新たに作成したので、今後、周知徹底を図っていく必要がある。 ・具体的な評価のあり方について資料を集め、研修を行っていく。 ・「童謡集」の活用のアイデアを伝え、意識して童謡の歌唱に取り組んでいく。	道徳教育 コーディネータ	田中
教育活動	●〇いじめ問題への対応	・人権・同和教育の充実	・こころのアンケートで、「学校が楽しい」と答える児童の割合を80%以上にする。 ・思いやりのある言葉かけができる児童を育成する。	・こころのアンケート等を毎月実施し、児童の心の状態や人間関係の様子を詳細に把握する。 ・言葉づかいのアンケートを随時実施し、児童の心を傷つける言い方・言葉を減らし、思いやりのある言い方・言葉を増やす。	B	・こころのアンケートは、実施回数を見直し、同じようなアンケートがある月は、そのアンケートで児童の実態を把握した。児童の心情を、ニコニコ・ふつふつ・悲しい・イライラという言葉で把握した。ニコニコとふつふつの子を合わせると82.5%であった。ニコニコの児童がもっと増えるような手立てが必要である。 ・「とんだち」について人権標語を作らせた。り、「ありがとうの木」に一言を書かせたりして、児童の心を耕してきた。 ・縦割り活動の後の振り返りでは、友達のおかげとありがとうを伝え合うようにして、よりよい人間関係作りを行ってきた。	・児童がもっと学校での生活が楽しくなるには、児童の人間関係がよりよくなるように、休み時間等の児童の様子を観察することが必要である。 ・児童と教師と一緒に触れ合う場を増やし、その中で人との関わり合いのアドバイスを行っている。 ・友達の良いところやありがとうが同じような内容ばかりなので、いろいろな視点や場を与えていく。	児童生徒支援	吉松池田石堂
教育活動	○特色ある学校づくり	・縦割り班で異学年交流体験 ・豊かな体験活動 ・地域の人・もの・ことから学ぶ	・縦割り班(のびのび班)の活動を、共遊や掃除・給食の時間などに意図的に仕組みながら交流をすすめる。 ・全学年で、総合的な学習の時間や生活科など、地域を素材にした単元作りや地域のゲストティーチャーから学ぶ授業作りを行う。	・のびのび班のリーダーに役割を持たせ、主体的な活動になるよう計画表を作らせる。 ・地域の学習素材や人材マップを作成し改善を加える。 ・3月に、お世話になった方への感謝の会を実施する。	A	・のびのび活動や縦割りそうじについては、年度当初に計画を立てさせておいたことで、スムーズに活動に移ることができた。 ・各学年で地域の方に話をしに来ていただいたり、地域の施設などを見学することで、充実した学習を行うことができた。	・今後も、児童会活動や学校行事などで、のびのび班での活動を入れるようにしていきたい。 ・地域人材マップなどを作成し、来年度も活用できるようにする。 ・ふるさと先生(さが農政企画課)の活用も積極的にしていきたい。	特活部	石橋
特定課題	・特別支援教育	・支援体制の整備 ・ケース会議での情報共有 ・通常学級に在籍する児童の支援	・児童の正確な実態把握をする。 ・特性を持った児童や個別に支援が必要な児童の共通理解を進める。	・教育相談の時間(毎月1回)の中で情報交換をする。効果的な支援の方法を探る。 ・講師による個別に指導のための校内研修会を実施する。 ・就学指導が必要な児童に対する対応は、特別支援COを中心に計画的に実施する。	B	・定期的に、教育相談研修会を実施し、全職員で気になる子について共通理解を図ることができた。 ・特別支援学校の巡回相談を活用し、個別に支援のために必要な個別支援計画等の研修を実施した。 ・就学支援の流れや、個別支援計画作成の手順を明確にし、計画的に実施することができた。また、支援が必要な児童について、適宜支援会議を開き、児童の困り感に対応することができた。	・特性を持った児童や個別に支援が必要な児童の支援の在り方について、職員全体の力量が高まるような研修会を企画していく。 ・共通理解が図れるように、週一回の職員連絡会の折に、児童の様子を伝える時間を設けることを検討する。	特別支援教育	吉松山縣

③知恵いっぱい									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●学力向上	○授業と家庭学習とのつながり ・基礎基本的技能を高め、思考力・表現力を伸ばす。 ・TT少人数指導、個に応じた指導 ○ICTの利活用教育の推進 ・読書習慣の定着、家読推進	・校内研等で授業とつながる効果的な家庭学習について検討していく。 ・全国学力検査、学習状況調査において、思考を要する問題の無回答を減らす。 ・一人ひとりに応じた指導の更なる充実を図る。 ・ICT機器を1日1回以上は活用するようにする。 ・児童や保護者への情報モラルの指導・啓発を行う。 ・毎月第3日曜日「家読の日」における家読実施率を80%以上にする。	・家庭学習でも、めあてを持ち、学習の振り返りをするなどの大切さを具体例を示しながら指導していく。 ・チャレンジタイムの時間に読み・書き・計算の定着を図り、思考力・表現力を伸ばす目的で活用問題やB問題に取り組ませる。 ・学年の実態に応じて、算数科の重点単元を中心に習熟度別指導を実施する。 ・電子教科書を日常的に活用できるよう、環境整備や活用法の研修会などを行う。 ・PTAと連携してインターネット利用における「家庭教育宣言」を策定し、保護者や児童への啓発を行う。 ・PTAと連携し、家読の日にあわせて「家読レポート」を各家庭で書いてもらう。	A	・算数や国語を中心に問題提示、児童の作品紹介、コンテンツの活用など、ほぼ毎日電子黒板を活用することができた。 ・4月にスマホやゲームに関するアンケートを全家庭に実施したり、5月にはPTA総会を折に「家庭教育宣言」を提示したりしてネットの利用についての啓発を行うことができた。 ・学習の流れや考えがわかりやすいようなノートづくりを指導してきた。友達の考えの良いところを書き込む姿が見られるようになった。	・効果的な電子黒板の活用についての研修を増やしたり、プログラミング教育についての研修を計画したりして教職員の力量の向上を図りたい。 ・高学年ではスマホやネットの利用についての授業を実施したが、家庭生活の現状を考えると全学年で授業を通して、その利用について児童や保護者への啓発を図る必要がある。 ・計算など基礎基本の定着に個人差が大きい。ドリルタイムを確実にに行い習熟を図りたい。	学力向上対策CO 指導法改善	松尾暢 石堂
特定課題	・教職員の資質向上	・言語力の充実を目指した校内研究 ・校内研究の他教科領域への活用 ・校外研修への積極的参加	・一人一回研究授業を行う。 ・どの教科においても書く活動を取り入れる。 ・一人一回は、校外研修に参加して研鑽を積む。	・12月までに研究授業を全て終了し、事後研究会を必ず行う。 ・どの教科においても『振り返り』を書く時間を設定する。 ・国語科を中心に、教育センターの講座や研究発表会など、それぞれが力を入れたい内容を選択し、進んで参加する。	A	・全職員が本校の研究主題や研究内容を理解し、その上で12月までの研究授業を全て終了することができた。また、事後研究会だけでなく事前研究会も行うことができ、忌憚のない意見を出し合うことができた。 ・ほとんどの教科において、その教科の特性に合った振り返りを行うことができた。	・ふり返りの仕方については、職員でさらに研修を深め、国語に限らずいろいろな教科においてのふり返りの仕方を話し合い、共通理解を深めていくことが大切だと思う。 ・新指導要領の完全実施に向けた研修を行い、実践につなげていく必要がある。	研究主任 管理運営	原口 羽田野

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	・開かれた学校	・教育目標の周知と理解 ・情報の提供と共有 ・地域の教育力の積極的活用 ・学校評価の実施と結果の公表	・教育目標や重点目標の周知を進め、理解度を100%に近づけるとともに、学校だよりや回覧板、ホームページなどを使っての情報開示の頻度を高める。 ・教育実践の中間評価を行い、その後の指導に生かす。	・学校だよりを回覧板用にも配布し、地域の隅々まで浸透させる。 ・HPの閲覧率を上げて情報共有が進むようにする。 ・評価項目の到達度を担当者に意識させながら、学期ごとに中間評価と改善が進むようにする。	C	・年度初めの職員会で校長より教育目標や重点項目の周知を図った。また、保護者に対しては、PTA総会や学校だよりで周知を図った。 ・定期的に学校だよりを発行し、学校に関する情報発信を行ってきた。また、緊急の連絡については、安心メールを使い、保護者への情報発信を行ってきた。	・今後、ホームページやブログなど、インターネット上での情報発信を充実させていく必要がある。	管理運営	伊藤 羽田野
学校運営	○危機管理	○通学路の安全点検及び安全指導 ○食物アレルギー等への対応 ・個人情報の保護の徹底	・安全指導や安全点検を、関係機関と連携をとりつつ効果的に実践し、保護者のAB評価を80%以上に高める。 ・食物アレルギーのある児童の把握と当該児童への適切な対応を図り、事故「0」とする。 ・危機管理や個人情報に対する職員の意識を高めるために、詳細な情報提供や実地研修を行う。	・抜き打ちの訓練や点検の方法を試しながら、危機意識を高める。 ・警察や消防、教育委員会との連携を進めノウハウを蓄積する。 ・食物アレルギーを持つ児童の保護者と定期的に打合せの機会を設け、情報交換を行う。 ・食物アレルギーを持つ児童の情報を全職員で共有する。 ・保護者の個人情報保護やサーバーのセキュリティを高める。	A	・毎月、定期的な安全点検だけでなく、必要に応じて、随時安全点検を行ってきた。 ・交通安全教室や避難訓練については、警察や消防と連携しながら、計画通り進めることができた。 ・毎月、アレルギー食材に関する詳細表示を各家庭に配布すると共に、必要な家庭には、毎月面談をして献立の確認を行い事故防止を図った。 ・毎月アレルギー食材についての詳細を職員室内に掲示し、情報の共有を行った。	・交通安全教室や避難訓練については、様々な場面を想定して、児童自らが判断しながら行動できるような工夫をしていく必要がある。 ・食物アレルギーについては、職員の研修を毎年行い、緊急時に適切に対応できるようにしておくようにする。	校務・管理	羽田野 野中
学校運営	○幼保小中連携	・東陵中学校校区での共通の取り組み ・大川・松浦小学校6年生の交流会・中学校体験入学 ・保育園・幼稚園との定期的な情報交換 ・大川保育園園児と小学校の児童の交流	・東陵中学校校区での研修を通して、幼・保・中との連携を進める。 ・松浦小学校との交流を通して、スムーズな接続を実現する。 ・保育園との交流を計画的に進め、スムーズな接続を実現する。	・年に3回の人権・同和教育の研修や、共通教材の授業実践で連携を進める。 ・中学校入学前に、松浦小学校の児童と交流や、中学校の授業体験を行う。 ・保育園への訪問で情報交換をし、園児の実態を把握する。 ・保育園訪問や、園児の来校を促す行事や単元計画を設定する。	A	・年3回人権・同和の研修や共通教材の授業実践を行った。 ・11月に授業体験、2月に松浦小学校との交流会が行われた。また、体験入学では松浦小学校の児童と一緒に授業を受けることができた。いい交流ができた。 ・保育園職員と適宜情報交換を行うことができた。 ・各学年に応じた内容で保育園との交流が行われているので今後も継続して行う。保育園側からは、年長児と5年生との交流を積極的にやりたいという反省がでた。	・東陵中学校校区の研修を通して、幼・小・中の縦の連携だけでなく、小・小の横の連携もできているので、今後も継続していきたい。	低学年	森元 田中
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教職員全体の働き方改革に関する意識改革に資する具体的な目標を設定する。	・勤務時間の適正化を行う。 ・能率性・有効性を意識して職務に当たる。 ・管理職は働きやすい職場づくりに努める。	・毎週、金曜日を定時退勤日として、全職員が定時に退勤できるよう心がける。 ・限られた時間で児童の変容を可能にするために、仕事に優先順位をつけて職務にあたる。 ・管理職自身が、職員が勤務上の悩みや相談しやすい環境作りを努める。 ・管理職自身が、定時退勤や業務の効率化に努める。	C	・毎週金曜日の定時退勤日にはいつもより早い退勤ができたが、定時に退勤する職員は少なかった。 ・職員の負担を減らすために業務の効率化などは十分に行うことができなかった。 ・管理職は、定期的な面談だけでなく、必要に応じて職員と面談を行い、職員と情報交換等を積極的に行ってきた。	・定時退勤を呼びかけるだけでは、働き方改革は推進することはできない。思い切った業務の効率化や行事の精選を地域や保護者の理解のもと進めていく必要がある。	管理運営	伊藤 羽田野

4 本年度のまとめ・次年度の取組

朝の時間に設定しているチャレンジタイムを充実させたり、TTや少人数指導など個に応じた指導を推進したりすることで、一定の学力向上がみられた。ただ、読み取ったことを自分の言葉で表現する力などに問題が見られるため今後も指導法の改善等を進めていく必要がある。来年度から電子教科書も導入されるので、電子黒板の活用も更に進めていきたい。本校では、これまで人権・同和教育を積極的に推進し、心の教育やいじめ問題への取り組みに取り組んできた。しかし、傷つく言葉を友達に投げかけたり、些細なことでもけんかになったりする場面は多く見受けられる。特に最近ではトラブルの原因となる言動がインターネット等が原因となっている場合が多くなってきている。実際にスマートフォン等を使用している児童は増えてきており、今後、保護者と連携しながら、情報モラル教育を推進していく必要がある。特色ある学校作りについては保護者から高い評価を受けており、今後もたてわり班を中心とした活動や、児童が主体となった学校行事や地域を素材にした授業等の取り組みを充実させていきたい。

●は共通評価項目 ○は市の共通評価項目 ・は独自評価項目